

インフルエンザによる集団発生がありました

毎年、12月から3月にかけて急性呼吸器系感染症として、インフルエンザが流行します。奈良県感染症情報センターでは県内55ヶ所の医療機関の協力のもと、患者数報告に基づいてインフルエンザ発生動向を分析しています。直近、第35週から37の週(8/27～9/16)の間での患者届出数からは、奈良市管内で4名、その他の保健所管内では0名との報告から、まだまだ本格的な流行期には程遠い感があります。

このような状況のなか、郡山保健所管内と奈良市管内でほぼ同時期に2箇所の幼稚園で集団インフルエンザ感染が発生しましたので注意喚起のためその概要をお知らせします。患者年齢は4から5歳児、患者総数は25名。ウイルス解析の結果、両者ともA(H1)pdm09でした。現在の全国の状況は、沖縄県、福岡県、秋田県などでA 香港型インフルエンザ A(H3)が流行していますが、ごくわずかに神奈川県でA(H1)pdm09が流行しているのにすぎず、近畿県内ではウイルス発生報告はありません。本県での感染経路は不明ですが県北部を中心としたインフルエンザは潜在的に継続する可能性があり、いましばらく注意深い観察が必要と考えます。

	発症者数	初発感染	結果
A 幼稚園 (5歳児)	12名	9/3	A(H1)pdm09
B 幼稚園 (4-5歳児)	13名	9/13	A(H1)pdm09

* A(H1)pdm09: 2009年に世界的流行したウイルス種に類似

インフルエンザの予防法



1. 流行前のワクチン接種

今シーズンのワクチンはA型2種類、B型1種類の抗原が含まれています(A/カリフォルニア株、A/ビクトリア株、B/ウイスコンシン)。任意接種ですので詳しくは最寄の医療機関に問い合わせください。

2. 外出後の手洗い、うがい

手指など体に付着したウイルスを除去するために有効です。

3. 適度な湿度の保持

空気が乾燥すると、のどの粘膜の防御機能が低下し、インフルエンザにかかりやすくなります。

4. 十分な休養とバランスのとれた栄養摂取: 抵抗力を高めるため。